



一般社団法人
**全国建設発生土
リサイクル協会**
JAPAN SOIL RECYCLING ASSOCIATION



発 足 式

開催日時 | 2021年6月11日(金) 15:00～15:40

場 所 | ホテルニューオータニ東京 鳳凰の間

以上の事業を進めながら、全国各地で起きている建設発生土の問題に取り組み、各地域に沿った土の有効利用をその地域の方々が進められるよう、協会としての役割を果たしてゆきたいと考えております。

そのためにも、多くの皆様からご意見・ご指導をいただき、有限な資源である“土”を持続可能な資源に導き、良質な発生土の再利用及び改良土や再生土と呼ばれる「リサイクルした土」が大地とインフラを支える“土”として有効に利用される社会を目指して活動してゆく所存です。

(一社) 全国建設発生土リサイクル協会 部会ごとの主な活動内容	
部会	主な活動内容
品質・技術	・建設発生土土質改良プラント認証制度構築 ・建設発生土専門技術者資格制度構築
情報・広報	・建設発生土に関する情報・資料の収集 ・地域ごとの建設発生土有効活用マネジメント ・建設発生土リサイクルへの取組の紹介・普及・啓発 ・協会ニュース発行 ・「土リミット」開催
災害対応	・災害復旧、復興支援に資する建設発生土及び土質改良土の活用事例収集 ・災害発生土の活用方法検討



理事・役員紹介



～ 映像による活動紹介～

閉会の辞

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会
常務理事 高野 昇



本日は、国土交通省 東川・技術審議官様、先端建設技術センター・佐藤理事長様から過分なお言葉をいただき、感謝申し上げます次第であります。

閉会にあたり、個人的な事を申し上げますをお許しください。私は建設発生土をテーマとするコンサルタントを生業としております。昭和57年、1982年に建設省関東地方建設局発注の「建設残土処理計画調査」を担当したことが、建設発生土に関わった最初であります。その後、建設本省、東京都をはじめとする行政組織の建設発生土そして、建設リサイクルに関する調査・施策立案を担当させていただき、本年2021年はちょうど40年目にあたります。このような節目の年に、この法人の設立に関わった事に大変、感慨深いものがあります。

さて、この法人は、活動のスタートラインに立ったばかりであり、先ほど、副理事長が説明いたしました事業を早急にかつ着実に実施する必要があることはいうまでもありません。事業実施に当たりましては、本日、ご出席いただきました皆様をはじめ、関係者のご支援が不可欠でありますので、この場をお借りしまして、お願い申し上げます次第であります。

最後ではありますが、改めまして、コロナ対策に携わっている全ての方々に厚く感謝申し上げます。そして、この緊急事態宣言下にもかかわらず、本日ご出席いただきました皆様のご健勝を祈念するとともに、引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

我々協会役員、会員一同 「質を重視した」建設発生土リサイクル推進に向けて邁進していくことを、ここに、お誓い申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

協会発足にあたり

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会
理事長 赤坂 泰子



本日は、全国建設発生土リサイクル協会発足式にあたり、ご多忙のなかご臨席賜りまして誠にありがとうございます。また、国土交通省大臣官房技術審議官の東川様、そして一般財団法人先端建設技術センター佐藤理事長様はじめ、多くの皆様にご出席いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

本会は、建設発生土によるリサイクル土の利用促進を図ることを目的とし、それに関連する協会、団体により、4月16日に設立されました。リサイクル土をいかに使ってもらうか、10数年に渡る団体交流の中、一番の課題であったこの問題解決の糸口を見つけるため、昨年10月「土サミット」を開催しました。この会では、各業界・団体の垣根を越え、リサイクル土の抱える現状を発信し、利用促進を進めるための課題を提起いたしました。リサイクル製品の促進の観点から、国土交通省様にもご参加いただいたところ、奇しくも「土サミット」開催数週間前の、令和2年9月、「建設リサイクル推進計画2020」が策定となり、リサイクルの質を重視することとなりました。これは私たちがリサイクルを進める中で、最も強く訴えてきたところでございます。この会をきっかけに、建設発生土の全国組織の必要性を求められ、この会の設立に至りました。

建設発生土の有効利用に関しては地域性が必要となりますが、基本となる軸は必要でございます。私たちはその軸を作り、地域に沿った土のリサイクルを進めるため、各地の皆様の声を聞き、この会を育てていきたいと考えております。

土には多くのものを浄化する、大切な役割がございます。その大切な土を、私たちは次の世代に残さなければなりません。土のリサイクルを進めることは、大切な自然遺産を残すことになるのです。

今回の設立にあたり、土の世界に何十年と携わってきた多くの先輩方との出会いをいただきました。会を通して、業界の先輩方が繋がり、共に建設発生土の新しい扉を開くことが出来ることを光栄に思います。今後も皆様のご指導、ご意見を賜りながら、邁進していく所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

式 次 第

15:00 開会

司会：事務局長 佐藤 孝治

- 開式の辞 一般社団法人全国建設発生土リサイクル協会
副理事長 田中 均
- 理事長挨拶 一般社団法人全国建設発生土リサイクル協会
理事長 赤坂 泰子
- ご来賓挨拶 国土交通省大臣官房
技術審議官 東川 直正 様

一般財団法人先端建設技術センター
理事長 佐藤 直良 様
- ご来賓紹介
- 設立の趣旨と事業内容の説明 一般社団法人全国建設発生土リサイクル協会
副理事長 戸高 康之
- 理事・役員紹介 事務局長 佐藤 孝治
- 協会活動紹介

15:40 閉会

- 閉会の辞 一般社団法人全国建設発生土リサイクル協会
常務理事 高野 昇



司会：事務局長 佐藤 孝治



開会宣言：副理事長 田中 均

ご来賓挨拶

一般財団法人 先端建設技術センター
理事長 佐藤 直良 様



ご紹介いただきました一般財団法人先端建設技術センターの理事長をしております佐藤と申します。まずもって、今回の建設発生土リサイクル協会の設立、心からお喜び申し上げます。また、東川さんがおっしゃったように、関係者の皆さん、ここまでご尽力された、そして全国組織を立ち上げられたご労苦に関して、心より敬意を表させていただきます。

私の立場ですと、今申し上げたセンターの理事長をしておりますが、建設副産物リサイクル広報推進会議と、漢字を覚えるだけでも大変なんです、その会長もさせていただいています。これは、各地方の建設副産物の利用促進を目的に、その普及・啓発活動を行う団体で、33の機関が入っています。ここでリサイクル法施行前から活動を行ってまして、そういう立場も踏まえて、今日はご挨拶させていただきます。

まず、建設発生土。これについては、リサイクルを進める上で大きな課題がたくさんあります。これは以前、赤坂理事長ともお話しさせていただいて、共通認識を持たせていただいたところですが、大きく分けると3つ。1つが需要と供給の問題。2つ目が流通あるいは、それを支える情報の問題。3つ目が一番大事な、発生土のリサイクルの質の問題。ともかく発生土の質が社会的に認知されない限り、1点目2点目は出てきません。そういう意味で今回、この協会が発足し、リサイクル推進計画に則って、質を重視した対応を行なっていくという皆様のお考え、私自身もまったく大賛成です。そして皆さんの活動がより深まっていき、広がっていくことを心から祈念しています。

世情、この国の行く末、例えば菅総理がおっしゃったカーボンニュートラルの問題。あるいは防災・減災のための国土強靱化、そしてトータルとしてSDGsが目指す持続可能な発展。これを支えるためにも、やはり土の問題は避けて通れない。そしてこの土が構成要素となる国土、これをどう見るか。私自身は国土の体質改善、これが必要になってくるんだろうと。今までどちらかというと活力ある国土を目指してきたんですが、もうそろそろ中年とはいかなくて、青年期を過ぎて、そろそろ国土全体もメタボ体質になりかけていると。私の年齢になると、もうちょっと遅いですが、そろそろ持続可能な体質へ改善していく、その意味で皆さんが作られた、この建設発生土リサイクル協会、ここにかかる期待というのは、いずれ間違いなく高まって、社会全体を動かす力になると確信しています。そういう意味で、皆さんの活動、少し場にそぐわない発言ですが、私はあまりリサイクルという言葉は好きではなくて、アップサイクルという言葉が好きです。建設発生土のリサイクルを通じて、その機能を高めるアップサイクル。そしてそのアップサイクルが、いずれ建設発生土だけではなく、赤坂理事長がおっしゃった土全体を扱う例えば産学官に共通した認識醸成のための緩やかな組織づくり、こういうものにまで発展するのではないかと、個人的にはものすごく期待しております。

そういう意味で今日の発足式、出発の門出として、皆様方の今後のますますのご発展と、そして協会自体が核になり、この国土を良くしていく、そういう働きにご期待申し上げてお祝いのご挨拶とさせていただきます。少々長くなりましたがありがとうございました。おめでとうございます。

ご来賓挨拶

国土交通省大臣官房
技術審議官 東川 直正 様
(令和3年7月1日より近畿地方整備局長)



ただいまご紹介いただきました東川といいます。国土交通省大臣官房技術審議官をさせていただいております。東に三本川で「とがわ」と読みます。よろしくお願い申し上げます。

本日は、全国建設発生土リサイクル協会の発足にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。赤坂理事長、田中副理事長、戸高副理事長をはじめ、この協会の会員の皆様方、また先端技術センターの佐藤理事長、関係の方々に本日お越しいただいております。日頃からこの建設リサイクルという分野に多大なる協力をいただきまして、高いところからではございますけれど、心からお礼申し上げますと考えている次第でございます。

私も実は平成21年度から2年間、この建設副産物のリサイクル行政に携わらせていただきました。当時、東日本大震災がございまして、震々関の中でその瓦礫の処分の担当を仰せつかりまして、いろいろ廃棄物の処分をしましたが、その時に一生懸命、土を巡る問題 についても対応させていただいたところでございます。この建設発生土でございますけれども、その量、質、また発生時期、これをどう適合させていくかというのが、重要な課題となっているところでございます。

有効利用については、かなり進んではきているというものの、まだまだ廃棄物に比べれば低い水準になっているというのが現在の状況でございます。そういった課題の中で、今日、全国で初めての組織、全国建設発生土リサイクル協会が発足されましたことを、当時の思い出も含めて、大変心から期待し、また感謝したいと思っております。赤坂理事長をはじめ、発足に尽力された方々、本当にありがとうございます。国土交通省も引き続き、この建設発生土のリサイクルに取り組むことを、皆様にお誓いするとともに、この協会と連携し、またご意見を伺って、出来る限りの支援をさせていただくということで対応したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、この協会の活躍に期待すると共に、ますます今後発展されるよう祈念いたしまして、私からの挨拶にさせていただきますと思います。今日はおめでとうございます。

(一社) 全国建設発生土リサイクル協会
部会ごとの主な活動内容

品質・技術部会

- 建設発生土土質改良プラント認証制度構築
- 建設発生土専門技術者資格制度構築

《品質・技術部会》では、リサイクル技術開発・リサイクルの質の向上に関する研究開発として、土質改良土の品質保証のため「建設発生土土質改良プラント認証制度」の構築を進めます。

既に、当協会顧問の京都大学大学院教授の勝見先生を委員長とする認証制度検討委員会を、当協会特別会員である一般財団法人先端建設技術センターと共同で設置することを決定しております。

さらに、建設発生土に関する技術者の養成として、「建設発生土専門技術者資格制度構築委員会」を設置し、資格制度構築に向けて検討します。

(一社) 全国建設発生土リサイクル協会
部会ごとの主な活動内容

情報・広報部会

- 建設発生土に関する情報・資料の収集
- 地域ごとの建設発生土有効活用マネジメント
- 建設発生土リサイクルへの取組の紹介・普及・啓発
- 協会ニュース発行
- 「土サミット」開催

《情報・広報部会》としては、建設発生土に関する情報、資料の収集及び提供をホームページ上で行うとともに、地域ごとの建設発生土有効活用マネジメントに向けた活動を行ってゆきます。

また、展示会等への出展による建設発生土リサイクルへの取組の紹介・普及・啓発活動を行い、協会ニュースを発行してゆきます。さらに、土に関する幅広い情報交換活動として「土サミット」を開催してゆきます。

(一社) 全国建設発生土リサイクル協会
部会ごとの主な活動内容

災害対応部会

- 災害復旧、復興支援に資する建設発生土及び土質改良土の活用事例収集
- 災害発生土の活用方法検討

《災害対応部会》は、災害復旧、復興支援に資する建設発生土及び土質改良土の活用事例を収集しホームページに掲載し、災害発生土の活用方法の検討をしてゆきます。



JASRA 協会設立の趣旨と事業内容

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会
副理事長 戸高 康之



当協会は、建設発生土のリサイクル業を行う各地の協会・団体を中心に、一番の問題であるリサイクル土の利用促進を図ることを目的として設立致しました。私たちは数十年にわたり、各地で土のリサイクルを進めて参りましたが、進めぬリサイクル製品の利用促進の問題を解決するべく、各団体同士で意見交換の場を持ちながら、問題解決のため、情報共有の場を設けて参りました。近年では、全国で建設発生土の団体設立が増え、土のリサイクルの気運の高まりを感じ、全国の「土」のリサイクルを生業とする皆様との意見交換の場を設けることを目的とし、昨年10月「土サミット」を開催しました。

この会をきっかけに、建設発生土の全国組織設立のお話を多く受け、2020年11月、宮城県・埼玉県・石川県・長崎県の組合を中心に、協会設立準備委員会を設置、このたび2021年4月16日協会設立となりました。

本協会の事業概要

(一社) 全国建設発生土リサイクル協会 主な事業		
1 建設発生土の リサイクル技術に関する 研究開発及び研修	2 建設発生土の リサイクルの質の向上に 関する研究開発及び研修	3 建設発生土に関する 情報、資料の収集及び提供
4 建設発生土に関する 技術者の養成	5 防災、減災、国土強靱化の 推進に資する、建設発生土 のリサイクル技術の活用	6 災害復旧、復興支援に 資する建設発生土の活用

これらをはじめ、土のリサイクルを推進するため
に必要な事業を行い、建設発生土の有効利用
に取り組んでいる団体が共通認識でリサイクル
を進め、質の良いリサイクル土を作ることで地域
貢献を図ってゆきます。

先ずは3つの部会により事業を進めて行きます。



(一社) 全国建設発生土リサイクル協会 部会ごとの主な活動内容
品質・技術部会
情報・広報部会
災害対応部会